

【別紙】令和3年度 学校自己評価重点目標シート (川口市立安行小学校)

(A4判横)

※学校関係者評価実施日とは、学校関係者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校教育目標	まじめな子 あかるい子 がんばる子
目指す学校像	光る所を伸ばし、学び合い高め合い、やる気と笑顔あふれる学校

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	
学校関係者 (教職員を除く)	8名
事務局 (教職員)	4名

学校自己評価					
領域	年度目標			年度評価 (令和4年2月1日 現在)	
	現状と課題	重点目標	具体的方策	重点目標の達成状況	達成度
組織運営	「コロナ対応」「不登校解消」「学力向上」「保護者・地域の信頼回復」といった最優先学校課題を全教職員で共有し、組織を有効に機能させ目指す学校像実現により課題を解決することが必要である。	○不登校の解消及び不登校の未然防止を実現する。 □子どもの良さを認め褒め伸ばすことで、自己肯定感を高める教育活動を実現する。	○不登校対応プロジェクトチームを立ち上げ、くすのきルーム (不登校対応ステップアップルーム) を新設し、在宅オンライン授業も含めて選択肢を増やして、個のニーズに応じた組織的な対応をする。 □光る所を伸ばすプロジェクトチームを生かして、お互いの良さを認め合える学級づくりを進めることで、どの児童にも良さを自覚させ、自尊感情を高める。(全校916名の光る所発見、伸長)	○くすのきルームの活用等ニーズに合わせた対応で、令和元年度12名→昨年度9名→今年度5名まで減少させることができた。 □ライフスキル川口の「秘密の友達」方式で認め合った光る所を学校公開日に全員分掲示し、家庭とも個々の良さを共有できた。	B A
教育課程	コロナ禍においても、課題である思考力・表現力、そして、主体的に学習に取り組む態度等、児童に確かな学力をつけることが求められる。	○子ども同士の学び合い教え合いを重視し、どの子ども分かる授業、できた喜びが味わえる授業を展開することで、個々に応じた学力向上を達成する。	○「教室は間違ふ所だ」の意識化による学び合いの促進や、ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり等で、主体的に学ぶ児童を育成して学力を向上させる ○安行小基本授業スタイルをもとに、毎時「考えを書き、説明し合う場」を設定し、思考力・表現力を養う。 ○ICT推進部を新設し、授業での1人1台タブレット積極的有効活用を推進する。	○スクールタクト導入による思考の可視化、「発表の仕方、聞き方」の全校統一指導で学び合いを促進し、学力が着実に伸びている。 ○南部事務所から指導主事を招聘した学力調査分析研修会等、外部の力も生かして学力向上を推進した。	B
開かれた学校づくり	コミュニティスクールとして、地域と新たな協体制を築くこと、及び保護者のボランティア活動、地域との交流活動を活性化させ、学校応援団の組織化に取り組み、家庭・地域の教育力を更に生かしていくことが課題である。	○積極的情報発信により安行小が家庭・地域の活力源となり、保護者・地域に愛される学校、共に地域の子どもの育める学校づくりを実現する。	○ホームページを即時更新して、やる気と笑顔あふれる教育活動等を積極的に発信し、安行小のファンを増やす。 ○おやじの会など学校応援団による環境整備支援や学習支援等の様子を積極的に周知し、さらに募集する。 ○地域教材開発や地域と児童との交流を仕組み、学校が地域の元気の源となる。 ○学校運営協議会で本校の光る所と課題、改善策を共有し学校運営に反映する。	○登下校時の安全見守りに、新たに地域の交通安全協会の協力が得られた。 ○「安行原の蛇づくり」について、ICTも生かして地域とつながる探求的な学びで埼玉新聞で紹介されたり、回覧板用「敬老の日」の児童メッセージを作成したりと、学校が地域の元気の源となる取組ができた。	A
教職員の資質向上	円滑なコミュニケーションとリスペクトのもと、協働して職責を果たし、全県的な課題である教職員事故や精神疾患等とは無縁の健全な職場環境を構築する必要がある。	○「ワンチーム安行小」として、心身ともに健康で、やる気と笑顔あふれる教職員の育成を実現する。	○授業研究等校内研修において、教職員同士学び合い、優れたスキルを共有化して授業の工夫改善を進めることで資質能力を向上させる。 ○具体的事故防止指導を継続的に行うとともに、倫理確立委員会等により組織の自浄作用を高め、風通し良く、高い倫理観を備えた教職員集団を形成する。	○学力を伸ばした教員の良い取組を学校全体で共有し、生かすことができた。 ○教職員学校評価で「事故を起こさせない風通しの良い職場作り」の達成率が全22項目中1番高く、事故根絶の高い意識が示された。	A
施設・設備等の管理	安全管理の徹底と施設・設備の迅速な修繕、計画的な予算の執行等に入力することが課題である。また、金銭に係る事故を絶対起こさぬよう、万全の対策をとることが求めら	○施設・設備の適切管理、及び会計関係を含めた諸帳簿の整備、管理の徹底、並びに効果的な予算運用により、安心・安全な教育環境づくりを	○ポイントを明確化した安全点検を実施し、迅速な修繕など適切な事後処理により、安全管理を徹底する。 ○施設設備の課題を踏まえた優先順位により、予算を効果的に運用し、潤いのある学習環境の整備を行う。 ○学年教材費口座引落しの新規導入で、原則として現金を取り扱わない会計システムを確	○学年教材費口座引落とし及び業者へのネット振込による支払いを初めて行い、原則現金を扱わず、且つ未納ゼロで実施できたことは、金銭に係る事故の防止及び負担軽減の観点からも大きな成果である。	B

学校関係者評価

※実施日 令和4年2月17日

学校関係者からの意見・要望・評価等

- ・「コロナ対応」を最重点として、絶えず保護者・地域の人達に気を配り、児童の安全育成に努力する先生方に敬服する。コロナ禍でも様々な試みで良い方向に動いていると思う。
- ・くすのきルームの試みはとても良い。クラスには行かれないが、くすのきルームなら、と考えられる環境を作ったことは評価できる。今後も不登校の要因をしっかりと探り、1人1人に丁寧に関わり、「見放さない」ことを改めて願う。
- ・児童個々の良い点を認め、それを伸ばす教育。
- ・1年やなかよし学級まで、楽しそうな絵も使い、授業の進め方等、よく考えられている。
- ・学力差、能力の個人差は当然ある。朝の15分モジュールタイムの取組で救われる児童もいると思う。日常の授業でも、低位児童への留意点を加味した指導案であってほしい。そこに教員の指導力が問われる。
- ・児童が、お互い教え合って仲良くできたら最高である。
- ・学校、家庭、社会教育三位一体、心を一つにした児童育成が重要。公益優先、社会のために真に役に立つ人材の育成を。
- ・地域の協力も積極的に受け入れ、良い形である。図書環境支援ボランティアも上手く動き出すことを願っている。
- ・学校運営協議会資料が充実しており、学校の様子が分かった。朝会の校長講話も具体的で分かり易く、学校への思いが伝わってきた。これも開かれた学校の姿だと思う。
- ・安行小はみんな仲良く、ワンチームである。
- ・教職員数が多く、教室での指導方法も個性があり、大画面やネット等、様々有効活用されている。まれに大声で叱る姿には少し心が痛む。
- ・管理職指導のもと、教員の教育指導力強化に取り組み、学力向上に尽力しており、安心である。教師が自分自身、品性向上に努力精
- ・老朽化した校舎の改善のため、絶えず尽力され、日々の努力に頭が下がる。
- ・体育館の雨漏りの修繕工事に着工できて良かった。
- ・古い校舎なので建て替えて体育館も3階建て等にできればよいが、予算が難しいか。
- ・児童が安全に学べるよう、地域みんなで力を合わせ、努力していきたい。市に働きかけ

	れる。	実現する。	立するとともに、複数チェック体制により、経理事故をゼロにする。	○机上パーティションの全校分購入等コロナ予算を有効活用できた。	年間で10%超アップした。今後も安心安全で潤いのある教育環境づくりに努める。	ることかことかめれは手伝つ。
--	-----	-------	---------------------------------	---------------------------------	--	----------------